

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3290400112
法人名	社会福祉法人 多伎の郷
事業所名	グループホーム はなんばの里
所在地 (電話番号)	出雲市多伎町口田儀750 (電話) 0853-86-7700

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年4月15日

## 【情報提供票より】(21年 2月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14.6 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建て	1階 ~ 0階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,160 円	その他の経費(月額)	9,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,380 円			

### (4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.7歳	最低	63歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院、こころの医療センター、おおの歯科医院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは主要国道から一步入った静かな環境にあり、前を流れる川では鯉が泳姿も見ることができ、川岸は公園の整備もなされている。日本海の河口や里山なども歩いていけるところにあり、JRの陸橋も望め、四季折々の表情や利用者が生まれ育った地域を感じることができる。  
 同法人・関連法人で特別養護老人ホームや老人保健施設など、様々な事業所を運営しており、連携を図りながらの支援がなされている。地元の行事の際には、花神輿がホームを訪れ、利用者とともに祭りを盛り上げたり、住民やボランティアの来訪も多いなど、地域との連携が図られていることは評価に値すると考えられる。また、地域との繋がりは深く、地域の意見を運営に活かし、より密な関係を築こうとする取り組みも同様の評価できる。  
 運営者や管理者、職員等の対応やヒアリングからも、ホームを地域に根差したものにしようとする思いが感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善を求められた項目については改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされており、その成果も窺い知ることができる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員ともに自己評価の意義を理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指そうとしている。評価を基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が見受けられた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、行政関係者、地域住民代表、入居者家族、法人職員をメンバーとし会議での意見、要望をもとにホームの質改善につなげていけるよう取り組んでいる。また外部評価の結果を踏まえた現在の取り組みも報告し、メンバーからの意見を貰い、より地域に根付いたホーム作りに全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時の際には積極的に話し合いの時間を設け、より多くの意見を聴取できるよう取り組んでいる。また家族懇談会を開催し、家族との関係の構築を図るとともに、意見を聞き運営に反映するような取り組みがなされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との交流を重要視しており、地域の行事や催し物、文化祭等には利用者と共に積極的に参加している。また地域住民やボランティアの来訪や、地元の保育所園児との「芋ほり交流」など、日々地域とそこに暮らす住民との関わりを持ち、連携を密にする取り組みがなされており、地域との連携に関しては評価できる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基とし、「地域と家族との交流を大切にし・・・」というホーム独自の理念をつくりあげ、地域との交流を積極的に行うなど、理念に沿った事業展開を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットごとに、基本理念を組み入れた毎月の支援目標を掲げ、理念を具現化する為にはどのようなケア提供が必要かということを念頭に置き、職員全体で基本理念の共有に向けた取り組みが行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や伝統行事等に積極的に参加し、交流したり、地域のボランティア団体や地元の保育園児との芋ほり等の交流など地域とのつきあいを大切にして積極的な取り組みがなされていることは評価できる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に説明し、自己評価も全員で検討がなされており、自己評価及び外部評価を通して、より一層の質の向上と、更に良いケア提供と、更なるホームの質の向上に向け積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、民生委員、行政関係者、管理者、法人関連施設長をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に開催しており会議での意見、要望をもとに改善に繋げていけるように、この会議をホームの質向上を目指す1つの機会として活用している。		

島根県 グループホームはなんばの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適時に市担当部署を訪問し、困ったこと等を協議・検討し、問題等は都度解決するなどして常にサービスの質の向上を目指しての取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回、利用者の担当職員より「家庭通信」で状況を報告したり、適時の電話連絡や、家族の来訪時の報告・相談など個々の状況に合わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇親会を開催して意見・要望等を聞いて、事業運営に反映させようと積極的に取り組んでいる。意見や苦情が出た場合には、その反映と解決に向けた仕組みも出来上がっており、良い取り組みがなされていることは評価できる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はグループホームの特性である顔馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解しており、各ユニットの職員は固定化しており、その環境が維持されることへの配慮がなされている。加えて、ホーム自体の職員の異動、退職も少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内研修が行われており、同じ研修を数回に分けて全職員が参加できるような配慮がなされている。また外部研修へも積極的に参加し、研修報告書は全職員が目を通すことにより共有化し、職員のスキルアップに繋がられるような取り組みがなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入し、会議や研修会に参加しての事例検討や情報交換を通し、事業所外の意見や経験をケアに活かし、ホームのケアの質の向上を目指しての。また、実践者研修を通して他のグループホームとの交換実習も行っているなどの取り組みもなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分な情報収集を行い、事前にホームを見学してもらうなどして雰囲気等を感じてもらってから利用を心掛けている。利用開始直後は、慣れ親しんだ家具等の持ち込みを働き掛けたり、家族により多くの面会を依頼するなどし、利用者が極力混乱を招かないような手立てが取られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物干し、畑仕事や掃除といった日常生活活動を利用者と一緒に行動など、共に支え合い、過ごしている支援がなされており、入居者からも教えてもらいながら、利用者職員が共に支えあう関係作り留意された支援がなされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の生活歴やライフスタイルから、利用者本人の思いや意向を把握し、加えて、日々のホームでの生活の中からその把握に努め、職員がその思いや意向を共有することで、利用者主体の支援が提供できるような体制が構築されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に全利用者について、全職員でアセスメントを行い、協議・検討を重ね、課題の把握を行い、介護計画に反映し共有化を図るような取組みが行われており、毎月のモニタリングに際しては、本人や家族等の思いや意向も反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごと、利用者の状態等に変化があった場合に見直しはなされ、職員で共有化しており、医師や専門職からの意見も反映されており、毎月モニタリングが行われてはいるものの、記録に残されていない。	○	日々の暮らしの中から利用者の直面する生活ニーズを把握し、利用者の状態に合ったケアが介護計画に基づき提供できるよう、毎月のモニタリング(評価・検証)と、少なくとも3ヶ月毎の見直しは必要であり、行ったことの正当性を立証する意味においても、必ず記録として残しておくこと、利用者の自立支援を目的とした介護計画策定に向けての取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院、往診など必要な支援は柔軟に対応している。また特養を始めとした同法人内の他の事業所との連携も図られており、多機能を活かした支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等が希望するかかりつけ医を基本としており、体調の急変時には往診依頼もなされるなど、かかりつけ医の利用を基本とした適切な医療が受けられるような支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りの指針」を作成し利用者、家族等に説明し同意を得ており、職員体制も整えられ、複数回の終末期の対応・看取りがなされており、ターミナルケアを行った結果、ホームのチームケアの体制がより強固なものになったことは評価できる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時等に、利用者の誇りや尊厳、プライバシーを損なわない対応について話し合い、職員の意識向上を図り、尊厳や誇りを尊重した上で、利用者個々の主体性を大切にする支援の提供が心掛けられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるものの職員の都合にならないよう、利用者の一人ひとりのペースにあわせ、利用者の体調等を見ての柔軟な対応がなされている。それ以外の時間は、それぞれの利用者で自由に過ごしており、買い物や散歩など利用者の思いやペースを尊重し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は基本的に外注となっておりホーム内では米飯と汁物のみとなっているが、週2回の昼食の食事作りを職員と一緒に作ったり、盛り付けや片付けを行っている。また職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を楽しむ支援が窺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、本人の希望時間帯に入浴できる支援がなされており、季節を感じる事が出来る、ゆず風呂なども行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者個々の得意分野を發揮できるよう役割りを見出し、發揮できる場を作っている。また、季節の行事を利用者と相談しながら行ったり、参加したり、行事外出や楽しみごと、気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて日常的な散歩やドライブや買い物などの支援を行っている。また調査日は、併設するデイサービスのお抹茶会に出かけるなどの外出支援も行われていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は自動ドアになっておりボタンを押さないと出られないシステムであったが、日中は手動に切り替えられいつでも開くように改善されていた。調査日当日も換気のため窓が全開してあり鍵をかけないケアの取り組みへの改善が確認できた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署の協力を得て、自衛消防訓練を行っている。また運営推進会議の委員の方にも声かけをし訓練の参加をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有化している。水分摂取も飲み物のメニューを張り出し、利用者が好きなものを自由に飲めるように工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの音楽を流したり、季節の花がさりげなく飾られている。パブリックスペースの団欒室は掘り炬燵になっており、訪問日は雛飾りが飾られていた。茶碗を洗う音や日光など、不快感は感じられなく心地良い環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を自宅から持って来てもらい、本人、家族と相談しながら配置を考えたりしている。製作した作品や外出時の写真も飾り、家族の来訪時の話題にするなど、利用者ごとに良い雰囲気を醸し出した居室作りがなされている。		